

## 情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年9月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	調味材料製造業	前月の醤油出荷量は前年同月に比べやや下回った。依然として消費の低迷が続いている。
	パン・菓子製造業①	残暑が厳しい上、新米が出回る時期であり売上は減少している。
	パン・菓子製造業②	他県での不適切な期限表示問題で業界は食品の取扱いや衛生管理の徹底を義務付け、食の安全に努めている。
繊維・同製品	織物業	絹分野では、需要期に入り荷動きは見られるが、前年同期と比較すると厳しさが増している。合繊分野では中近東向け差別化織物、スポーツ素材で堅調な動きが見られる。
	その他の織物業	9月度は、前年同期に比べて9%売上が落ちた。今年は早い段階から売上の落ち込みが始まり、7、8、9月は過去に無い落ち込みとなり厳しい状況を迎えている。現時点でも一向に回復兆候が無く、今後、業界全体がどのような方向へと向かうのか予断を許さない状況が続くようである。
木材・木製品	製材業、木製品製造業①	档材は高値で推移している。このため档材は昨年よりも入荷は順調である。その他として、杉材は間伐材が多く価格は昨年と変わらない。
	製材業、木製品製造業②	前年同月に比べて着工棟数は非常に落ち込んでいる。確認申請の許可が以前と比べ相当厳しくなっていることが要因ではないかと考える。資材価格については、依然として需給バランスの崩れが解消せず低迷している。
窯業・土石製品	生コンクリート製造業	県内の生コンクリートの出荷状況は、前年同月に比べて104.3%とプラスで推移した。地区状況では、金沢地区がマイナス出荷となったものの、南加賀、鶴来・白峰、羽咋・鹿島、七尾、能登地区がプラスとなった。その他として上半期(4~9月分)は前年同月比95.0%とマイナスの出荷となった。
	粘土かわら製造業	売上高は前年同月に比べ10%減少している。また重油やガスの価格の高騰が続いており収益状況が悪化している。他県では値上げを実施しているところもあり、石川県内においても他県の値上げを見ながら実施する方向で進んでいる。
	陶磁器・同関連製品製造業	業界全体は依然として低迷しているが、PRや販売促進については力を注いでいる。
	碎石製造業	9月の取扱い出荷量は、対前年同月比で生コン向け出荷量が5.7%減、合材用アスファルト向け出荷量が23.4%減で全体出荷量は8%減といずれも減少した。また、4月から9月までの上半期の出荷量は、対前年同月比で生コン向け出荷量が5.2%減、合材用アスファルト向けが33%減で全体の出荷量は8.4%減と大きく減少している。下半期も厳しい業況が見込まれる。
鉄鋼・金属	鉄素形材製造業①	業界は夏枯れの影響もあるが、全体的には比較的安定している。これを生産量で見ると上期は前年対比4%増産となっている。しかし、鑄造用諸資材の値上がりは上限知らずで、企業経営を圧迫してきている。
	鉄素形材製造業②	平成19年度上半期は前年同期に比べ売上高及び操業度が低下傾向にある。その他として原油高騰等の影響により収益面において影響を受けている組合員企業がいるように思われる。
	非鉄金属・合金圧延業	前月に引き続き、売上高は約4%減少した。
	一般機械器具製造業	特に不安材料は見当たらないが、今までがあまりにも良すぎたため、物足りなさを感じる。
一般機器	機械金属、機械器具の製造	高水準で堅調な操業を維持している。取引先からの生産能力アップの要請に応える設備投資も一段落した模様。次の段階への準備のため工場拡張の意欲を持っている事業所もあるが、自社敷地に余裕が無く、用地の確保や拡張が思うように進んでいない。
	プレス、工作機械	エンドユーザーが国外である受注が多くなってきている。特に中国における日系企業からの受注が増加している。
	機械器具及び其の他金属製品の製造	景況は高いレベルで推移している。今月の業況は前年同期に比べ好転でシフトした。原材料の高騰により収益を圧迫しているが、生産量の拡大によってなんとか吸収している。他の地域に比べても南加賀地区は量的繁忙と思われる。
	繊維機械製造業	繊維機械、建設機械関連の部品加工は好調を維持している。工作機械関連は自動車業界の設備投資が伸び伸びになっているため調整局面が続いているが、好調な輸出に支えられてまずまずの水準を維持している。
その他の製造業	漆器製造業	6月~7月と不調だった木製漆器業界も落ち着いたを取り戻し、9月はほぼ昨年並みの数字となっている。近代漆器は引き続き昨年並みの状況で、企業によっては売上増の組合員も見られる。いずれにしても夏場は漆器業界の閑散期であり今年度の実績は秋以降の商戦に期待される。

情報連絡一覧票 (石川県中央会・平成19年9月分)

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
卸売業	繊維品卸売業	以前よりも増して二極化が進んでいる。
	農畜産物・水産物卸売業	売上高は相変わらず減少している。場外流通が進行しているようであり、業界の先行きが不安である。このような中で各事業所は一層の経営の効率化が求められる。
	一般機械器具卸売業	9月は当業界は閑散期になり、新築住宅も年末に向けての仕事であり仕掛も無く、どの組合員も苦戦を強いられる。大型の箱物も無く専ら仕事割りに励む時期となっている。
小売業	百貨店・総合スーパー	9月は予算比92.1%、前年比102.4%、客数は101.3%と前年同月とほぼ同じで推移した。9月は下旬まで残暑が長引いたせいもあり、特にファッション、服飾雑貨でも靴が不調であった。全体的には横ばいで推移している状態であるが、客数は落ちていないという状況である。
	男子服小売業 婦人・子供服小売業	例年に無く残暑が長引き、夏物商品の消化に追われ、初秋物は不調に終わった。売上確保の努力をしたものの、ガソリンの値上げなどの影響により、個人消費の活性化には繋がらず、前年対比94.8%で推移した。
	鮮魚小売業	9月より底曳きの解禁となったが、中旬は閑散気味であった。中旬から入荷量も増えてきた。残暑も厳しかったので売上は良くない。
	米穀類小売業	19年産の先般の作況指数は全国平均99で平年作と発表された。新米も出回ってきたが、先行きはいまいちの状態である。消費者にとっては食品の安全に関心が高く、偽装表示に敏感であり、農林水産省では特別調査を実施しているところである。食品の安全にあつては業界をあげて信頼の維持に努めなければならない。
	機械器具小売業	9月の地域店の伸びは、102%であった。液晶・PDPテレビの台数出荷は好調を継続しており140%と大きく伸びたものの、売価ダウンが続いており売上金額伸び率を大幅に押し上げるのが厳しくなってきた。暑さ続きによるルームエアコンも好調であったが、今まで金額アップに寄与してきたオール電化関連機器は伸び悩み102%の伸びに留まった。
	燃料小売業	8月から一部で先行値下げをしていたが、中旬から更に値下がりしマージンは圧縮している。その他として一昔前は優良店といわれていた店舗が、メーカー側の意向を受入れなかったために、不利な条件での取引を強いられ廃業を決定した。
	他に分類されない その他の小売業	長いトンネルからようやく抜け出した感がある。観光客数、売上ともに前年を上回った。ただし、日、祝日は順調であるが、平日のお客様の数は少ない。
商店街	近江町市場	市場の工事等の影響からか、来街者の減少や売上の減少が見受けられる。
	尾張町商店街	いつまでも涼しくならない天気、いつまでも落ち着かない政局。ずるずるして区切りがつかないことが景気にはずみをつけてくれない。秋のイベントシーズンが来ているものの、入出がもうひとつである。そのような中で相変わらず購買意欲は低迷しているようである。
	片町商店街	9月は残暑が厳しく、秋の季節商品を扱っている衣料関係の店舗は前年割れを起こしている。その他として三連休は入出は多かったが、夏の商戦の一般から静かな月であった。
サービス業	旅館、ホテル①	首都圏からの観光客は地震による風評被害の影響により、東北・北海道へと流れている。北陸地方への観光客は前年に比べ10%程度減少しており大変厳しい状況となっている。
	旅館、ホテル②	夏休み需要の反動を受け、年間を通して弱い月に入っており、資金繰り的にも厳しい背景はある。しかし、秋以降の問い合わせも多くなっている面も出て来ており、情報発信量を増やしていきたいと考えている。
	旅館、ホテル③	原油の高騰に連動し、諸物価が連鎖して値上り傾向にある。一般的に税制改悪や社会保障費等の過重から先行きの生活不安を招いている。自己防衛が先立ち、必要消費のみの抑制傾向が持続して、一番に旅行消費には大きなブレーキになっていると思われる。
	旅館、ホテル④	前年同月に比べ客数は若干減少しているものの回復傾向にある。しかし、一人当たりの消費額が減少しており全体的にはまだまだ厳しい状況にある。
	自動車整備業	継続検査実績車数数は、前年同月比2.4%減、前月比15.4%増となった。新規検査状況は、前年同月比1.6%減、前月比42.7%増となった。
建設業	一般土木建築工事業	建設資材等の仕入れ単価が上昇している反面、受注価格は官工事、民間工事とも下落が続いており、工事利益を確保するのに困難な状況である。また先行き不安の傾向からか、利益を度外視して受注に走っている傾向にあり、好況感はなく見当たらない現状である。その他として公共工事(大型工事)の発注物件が少なく、小さな改修工事を受注しても現場経費、一般管理費に多くを要し、収益の見込みの無い状況である。
	板金・金物工事業	全体的には前年同期と変わらない状況にあるものの、加賀地区方面では売上高や在庫数量の減少、販売価格の低下、取引条件や収益状況、資金繰りの悪化、設備稼働率の低下等による業界の悪化がみられる。また、元請業者が安値で叩き合うため、下請業者にしわ寄せがくる状況が依然として続いている。
	室内装飾工事業	売上は増加傾向にある企業と減少傾向にある企業の二極化が進んでいる。そのような中で販売価格、取引条件、収益状況が悪化していると訴える企業が増えてきた。
運輸業	一般貨物自動車運送業①	軽油価格がまた3~4円値上げされた。価格の安定化を早急に望む。
	一般貨物自動車運送業②	取引高は前月に引き続き今月も前年同期に比べて約12%マイナスとなった。軽油価格は多少下がったが、来月は再度値上げされるようで、厳しい業況が続くそう感じている。